

令和2年度 学力向上プラン

学校名 中央区立日本橋小学校

学校の教育目標

児童一人一人が個性や能力を発揮し、学校や地域社会の一員として ・よく考える子～創意工夫をこらし、主体的に学び続ける子供
 ・礼儀正しい子～きまりを守り、礼儀正しく思いやりのある子供・やりぬく子～勤労と責任を重んじ、何事にもねばり強く努力する子供
 ・健康な子～明るく、心身ともに健康な子供 の育成に向けた教育を推進する

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

目標－創意工夫をこらし、主体的に学び続ける力の育成

- ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得
- ・問題解決的な学習や体験的学習を通して、児童の興味・関心の向上
- ・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」の一体的な育成

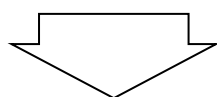
令和元年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み取る力、人物の心情を読み取る力に課題がある。 ・人の話を聞くことに課題がある。 ・漢字及び言語領域に課題がある。 ・漢字学習の習得状況や文を書く力に課題がある。 ・支援を要する児童に対しての指導の工夫に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章をじっくりと注意深く読み取ることができていない。 ・最後まで聞くことができず、自分がしゃべってしまう児童が多い。 ・漢字を練習し、活用する力の積み重ねが不十分である。習った後の定着ができていなかったり、語彙が足りなかったりする。 ・必要感をもって文章を書く経験が少ない。文章を書くことに慣れていない。 ・学級に支援を要する児童が多いクラスは、なかなか授業を計画的に進められない。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」「量と測定」「図形」の領域に課題がある。 ・問題の意図を読み取り、数学的に考える力が低いことに課題がある。 （東京ベーシック・ドリル等からの分析） ・支援を要する児童に対しての指導の工夫に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習った後の定着ができていないため、基礎的な計算で間違える。 ・実体験と結び付いていないため量感が乏しい。 ・問題を論理的に考え、その考えを説明する力が十分に育っていない。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象についての理解度の低さや考察に課題がある。 ・地域に対する興味・関心をあまり高められなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に見られる問題に関心をもたせられていない。 ・考えさせたり、表現させたりする活動が足りない。 ・生活科との連携ができていない。

理科	<ul style="list-style-type: none"> ・他の観点に比べ、「観察・実験の技能」の定着がやや不十分である。特に実験器具の扱い方に関する知識が低く、課題である。 ・実験・観察結果から、筋道を立てて論理的に考える力がまだ育っていない。 ・自然事象への関心が全体的に低い。(全国学力向上調査などからの分析) 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験や既習事項から予想を立てたり、結果を論理的に考えたりする授業の流れができていない。実験を行っているが、用具の使い方は一度では定着しにくい。 ・自然の事象に触れる機会が少なく、関心が低い。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の体力測定の結果から、「持久力」と「投力」、「握力」に課題がある。 ・運動技能に個人差が大きく、疲れやすい児童や体の使い方がぎこちない児童がいる。 ・姿勢を長時間保持することができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外で体を動かして遊ぶ経験と時間が少ない。日常的にボールを投げる経験が少ない児童が多い。 ・体幹の弱さや気持ちの問題がある。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
① 学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習規律（次の授業の準備をする、時刻を守る、姿勢をよくする、話を聞くなど）を守ることができるようにする。 ・学習の定着が十分ではない児童へは家庭での課題の出し方を工夫したり、個別に助言などを行う。
② 授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や理解度により適した授業にするために、ユニバーサルデザインの授業ができるようにする。 ・体験活動を増やし、児童の関心・意欲を高める。 ・学んだことを授業内で復習も行い、定着させる。 ・図書館指導員による「読み聞かせ」や「ブックトーク」、日本橋図書館の団体貸し出し等を活用し、読書習慣の形成を図る。 ・国語の学習以外でも文章で表現する機会を増やし、児童が自ら意欲的に文章を書くための資質を高める。
③ 教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究や各学年での授業研究で、指導力の向上を図る。 ・全教員がOJTで実技研修や模擬授業を行い、実践に生かす。 ・全教員が一人一実践や一日一実践を行い、指導力向上に務める。
④ 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から家庭学習や自主学習の内容や方法の目安を提示する。 ・宿題の提出率を高めるとともに、やってこない児童には学校でやらせるようにする。 ・学校評価（保護者アンケート）の関連する質問項目で80%以上の肯定的な評価を得られるようにする。
⑤ 体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体力調査で平均より下回っている「持久力」「投力」「握力」を使う授業を行い、体力の向上を図る。 ・コーディネーショントレーニングを取り入れ、いろいろな体の使い方ができるようにする。 ・休み時間には、スポンジ小ボールを使用して多くの子がボールにふれられるようにして、「投力」の向上を図る。

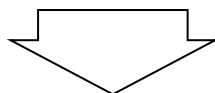
【目標達成のための具体的な取組内容】



① 学力基盤	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 授業後、離席する前に、次の授業の準備をすることを習慣付け、決められた時刻で授業を始められるようにすることができるようにするとともに、座らない児童がいても学習を始められる活動を取り入れる。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞くときは話す人の目を見て最後まで聞くこと、話すときは相手を見て聞き取りやすい声の大きさ・速さで話をするように指導するとともに、聞き取りワークの活動を取り入れる。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> 週1回の朝学習では、東京ベーシック・ドリルを活用して既習事項の復習を行うとともに、特に定着が十分でない児童には、個別に指導を行う。
②授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領や教科書をもとに、本校で行われてきたこれまでの実践を生かしながら児童の実態に合った授業プランや指導計画を編成し、ユニバーサルデザインの授業に変えていく。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 授業における児童の様子や各単元のまとめや学力テストなどの結果をもとに各学年、学級の課題を分析し、重点的に指導を行ったり、改善、向上に向けて継続的な取り組みを実施したりする。体験活動や図書館との連携の引き継ぎをきちんと行い、誰が担任になってもできるようにする。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> 「学び合い」を重視した学習活動を授業の中に取り入れ、互いの考えを深めたり広げたりする。 国語の学習以外でも文章で表現する機会を増やし、学年の発達に応じて文章で表す活動を日常的に行う。
③教員の指導力	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるために、全学年で授業規律の定着を図れるような指導技術を身に付ける。 教材研究に努め、一日の授業の中で特に指導を工夫して行う一日一実践や、互いに授業を見合う週を設定したOJTウィークを行い、指導力の向上を図る。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 工夫して、児童が自分の考えをもって学習に取り組み、話し合い活動により自らの考えを深めたり、広げたりする学習を通して、自ら学ぶ態度を育てられるようにする。 ユニバーサルデザインの授業を学び、問題解決的な学習や体験的学習を構成・展開できるようにする。また、その考えを取り入れた授業を一人一実践として行う。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> 日常の学習状況や各種テスト、東京ベーシック・ドリルなどの結果を分析し、指導の改善を図る。
④家庭との連携	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 持ち物には記名し、前日に持ち物の準備をして忘れ物をしないこと、学習に関係のないものは持ってこないことなど、家庭と連携し指導を行う。年度始めの保護者会で、具体的に保護者に呼びかける。 各学年、学級の実態に応じて継続的、計画的に課題を与え、家庭学習の習慣を身に付けられるよう、学習目標を共有し、家庭の協力を求める。

取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や学年便り、電話連絡を通して家庭との連絡を密にする。 ・学校での児童の成長や課題等を伝えると同時に、家庭での様子や保護者の要望なども伝えてもらい、児童理解や指導を進めていく。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の思いやりの心や規範意識を高めていけるように、引き続き人権尊重教育を実践するとともに、家庭にも協力を求めていく。
⑤体力向上	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・「持久力」向上の取り組みとして、大縄月間中は体育の時間に、全学年八の字跳びを2分間×3回実施し、短縄月間中は、1～3年2分間、4～6年3分間の持久跳びを毎回実施する。 ・持久走カードを活用した取組を実施し、長距離を走る力を積み重ね、達成感をもたせる。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・「投力」向上の取り組みとして、休み時間に使えるボールとしてスポンジの小型ボールを用意し、投げる運動（キャッチボールやパス練習など）に積極的に取り組ませる。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーショントレーニングについて、日常的に教員が使える指導を体育部から提案し、各クラスで実施する。

【取組結果の検証】



学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を守る意識が高まり、決められた時刻で学習に取り組めるようになった。 ・ 算数や社会では、始めにフラッシュカードや計算の時間をとって過去の復習を日々少しずつ行ってきた。知識等の定着につながった。 ・ 朝学習、算数の学習では、個人用のたしざん、ひきざんカードを使った演習を行い、速く、正確に計算することができるようになってきた。 ・ チャイム着席を意識し、決められた時間内は集中して学習に取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 算数では、単元に入る前に必ずフラッシュカードやミニプリント等を用いて復習時間を設ける。「東京ベーシック・ドリル」等の結果を基に、学習内容の定着を確認しながら、放課後の補習を工夫する。 ・ 話を聞く態度を育てるため、掲示物を生かしたり、フラッシュカードを取り入れたりして授業を工夫したので、今後も継続していく。 ・ 体験活動や話し合い活動を取り入れた授業を行い、児童の学習意欲を引き出し、自分や相手の見方・考え方を尊重し合う学びの大切さを意識させる。
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニバーサルデザインの考えを取り入れ、少人数で話し合う活動の工夫や思考ツール等を活用しての活動を行うことで、考えを広げたり深めたりさせることができた。 ・ 構成を考えて文章を書く活動を繰り返し行い、全体に書ける量と質が上がった。 ・ 語彙を増やすという観点で漢字の復習を行い、漢字の習得率を上げてきた。 ・ 校内研究をもとに、少人数での話し合い活動を多くとることで、話し合い活動（トリオ）をスムーズに行うことができた。 ・ 校内研究をもとにさまざまな手立てを用いて、授業に取り組んだ。模擬授 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後さらにユニバーサルデザインの考えを取り入れ、全ての児童が関心をもち参加できる授業を目指し、少人数で話し合う活動の仕方等を工夫して行う授業を継続していく。 ・ 集団で学習することを不安に思う児童や少人数の学習で気持ちを落ち着かせる必要のある児童は「校内寺子屋」で学習するシステムを作る。「校内寺子屋」は、学習指導補助員と月一回の当番制で教員が管理し、各クラス担任から渡された学習課題（ICT教材も含む）を静かな環境で行う。 ・ 年間を見通したカリキュラムマネジメントを年度当初に行う。 ・ タブレット、電子黒板等のICT機器を有効に活用し、児童の学習意欲を引き出し思考力・判断力・表現力を高める。プログラミング教育

	<p>業では、率直な意見を述べ合っ、よりよい授業につながられた。</p>	<p>を発達段階に応じて生かしていく工夫をする。今後は、タブレットを利用した学習を充実させるとともに、家庭学習においても活用を促し、基礎学力の定着を図る。</p>
<p>③教員の 指導力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 持ち物や学習用具等の決まりを全校で統一するために、生活指導部を中心に改めて検討している。学年でも持ち物等の学習環境を整えられるよう指導した。 OJTウィーク、一日一実践の取組や、放課後に2学年間の教員で情報を共有する話し合いを行い、教員の指導力向上を図った。 担任が同じ学年の他のクラスの授業をすることで、児童理解を深められるとともに、教員の授業力向上に役立った。 	<ul style="list-style-type: none"> OJT研修を通じてベテラン教員から若手教員へ授業実践例や指導法を共有できる場面を増やし、更に指導力の向上を図る。 教員自身が、積極的に特別支援教育を学ぶ研修を設定し、特別支援教育の充実を図り、学校全体の学力の保障を目指す。
<p>④家庭との 連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリルの個票や学級満足度・学校生活意欲アンケートの個人票を保護者に渡し、連携を図ることができた。 保護者会や個人面談の方法を工夫し、家庭と情報の交換や共有を図ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携を取り、放課後の補習教室を計画的に行い、学習内容の習得が不十分な児童への支援を充実させるとともに、基礎的な学力の全体的な底上げを図る。 タブレットを活用しての家庭学習の充実を図り、基礎学力を定着させる必要がある。 学校・家庭・地域が相互に連携し、命の大切さや思いやり、感動する心など、豊かな人間性を育む道徳教育を推進し、学校便りや学校HP等で、学校で取り組んだ学びを家庭と共有できるようにする必要がある。
<p>⑤体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> なわとび期間や持久走期間を設けて、児童の体力向上を図った。 体の部位を意識した動き、巧緻性の向上を目指し、年間の授業を通して体ほぐし運動を行った。友達と一緒に運動する楽しさを味わわせることができた。 スポーツフェスティバルで短縄跳びを行ったことで、長期的に短縄の練習に取り組み、体力向上につながった。 休み時間は、できるだけ体育館、校庭、スカイコートで身体を動かすよう声かけをし、体力向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに教員研修を行い、運動効果を高めるためのコーディネーショントレーニングのやり方を確認し、それを学習の中に取り入れ、各学年で取り組んでいく。 運動委員会と連携し、縄跳びの技の紹介等を行うことで、取組の実施期間の周知や方法を工夫し、児童の意欲や技能、能力の更なる向上を図る。 児童の体力状況を踏まえ、基礎体力向上に留意した体力向上プランを作成する。また、運動への興味・関心を高め、体育指導補助員を活用した指導や、校庭、体育館、スカイコートなどの施設の活用を通し、運動する楽しさを実感させる。